



学校だより

10月号



令和4年9月30日
横浜市立能見台南小学校

← 学校ホームページ
QRコード

体験的に学ぶこと

校長 榊原 一紀

9月21日から22日にかけて4年生の宿泊体験学習が行われました。感染対策をしながらの活動でしたので、食事は黙食、マスクをしておのキャンドルファイヤーなど制限される部分が多くありましたが、楽しく活動している姿がたくさん見られました。

2日間の体験学習を通して、児童は多くの大切なことを学んでいました。例えば、次の行動を先生に聞く児童がしおりを見て行動することができるようになったことや、リーダーが責任をもって班員に話をしている姿、自分の係の仕事をきちんと行っている様子などです。

近年の課題として、人間関係をうまく作れない、集団生活に適應できない児童の増加や規範意識の低下などが指摘されています。様々な理由が考えられますが、直接体験できる環境が少なくなっていることも原因の一つにあると考えます。インターネットやテレビ等を介して感覚的に学びとる「間接体験」や、シミュレーションや模型等を通じて模擬的に学ぶ「擬似体験」が多くなりました。テニスなどのスポーツを画面上でできたとしても、実際に打ち返すボールの重さを感じることはできません。それに、うまくいかなければリセットしたり、止めたりすることもできますが、実際の場面ではそうはいきません。体験学習の例でいえば、キャンドルファイヤーでやっていた「猛獣狩り」というゲーム（司会が言った言葉の文字数と同じ人数でグループを作るゲーム）では、さっきまで一緒にいた友達が違う友達とグループを作って一人になることで不安を感じたり、違う友達に誘われて、新しいグループを作り仲間ができて安心したりします。ちょっとしたゲームの中にも、いろんな感情が湧き心を育む場面が生まれます。

遠足や体験学習などの体験的に学ぶ活動を通して育つ力はたくさんあります。特に「自立心」「自己抑制力」「責任感」「共生」「寛容」などは育てていきたい大切な力です。コロナ禍で様々な行事の中止や縮小をしてきましたが、今年度は、感染対策をしながら、できるだけ進めていきたいと考えています。保護者の皆様にはご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。